

国立大学法人東京大学
日本電気株式会社

東大と NEC、人と AI が豊かに共生する信頼社会の実現に向け 産学協創協定を締結

～AI ネイティブ社会の構想策定から社会実装までを一貫して推進～

国立大学法人東京大学(以下 東京大学、注 1)と日本電気株式会社(以下 NEC、注 2)は、「AI と共生する未来の協奏—信頼ある社会実装に向けて—」をビジョンに掲げ、人と AI が豊かに共生する信頼社会の実現に向けて産学協創協定を本日締結、NEC 東大ラボを設置します。NEC 東大ラボは、本協定に基づく共同活動の実行母体として、多様なステークホルダーによる議論の場での「問い」の探究、社会連携講座での社会実装に向けた活動、そして人材育成を一体で推進します。

本協定は、ソートリーダーシップ(注 3)活動を通じた AI ネイティブ社会の構想策定の段階から、社会実装に至るまでを一貫して推進するものです。両者は、技術開発にとどまらず、社会実装のために必要な法改正、倫理・社会規範の形成、文理横断型の研究の深化など多様な観点から取り組みます。これらを通じて両者は、AI ネイティブ社会における安全・安心を基盤とした新しい社会像を確立し、持続可能な未来社会の実現に貢献していきます。

求められる急速な時代変化への対応

社会OSの書き換え <small>AIが産業構造や意思決定の仕組みを変える</small>	知のアップデート <small>未来を描き、実行に移す力が差別化要因</small>
オープンイノベーションの活性化 <small>—社単独のイノベーションの限界</small>	リアルタイム仮説検証の重要性 <small>急速な変化に対応するための柔軟性</small>

AIと共生する未来の協奏 —信頼ある社会実装に向けて— 「NEC東大ラボ」を構築

	<ul style="list-style-type: none"> AI分野の事業創造力 豊富な事業化人材 社会インフラ実装の実績 		<ul style="list-style-type: none"> 東大をハブとした人材ネットワーク 知の巨人としての深い知見の発出 様々な専門分野に対する知見
新たな価値の社会実装 <small>基盤技術確立 実証試験 社会実装</small>	未来社会のデザイン <small>議論の場での「問い」の探究 ソートリーダーシップ活動 ホワイトペーパー発行</small>	社会規範・倫理の形成 <small>業界横断の連携活動 標準化活動 ルールメイキング</small>	人材育成 <small>デザイン人材の育成 変革リーダー育成 事業構想力の育成</small>

東大と NEC による産学協創の概要

【背景】

近年、AI は急速な進化を遂げ、社会や産業のあり方を大きく変革しようとしています。その一方で AI の活用をめぐるのは、倫理や社会受容性、人と AI の関係性など多岐にわたる課題も顕在化しています。こうした AI ネイティブ社会への移行期において、個別の技術開発や部分的な制度整備にとどまらず、社会全体を俯瞰したビジョンのもとで未来社会をデザインし、実装までを一貫して進める枠組みが不可欠です。

東京大学と NEC はこのたびの協定において、「AI と共生する未来の協奏—信頼ある社会実装に向けて—」というビジョンのもと、法制度の整備、技術開発、人材育成、そして具体的な社会実装までを総合的に推進します。あわせて、社会実装された成果の海外展開を通じて、日本の産業競争力の強化とデジタル赤字の解消にも寄与することを目指します。

本協定のもと、東京大学の高度で多様な知と、NEC が培ってきた先進技術および社会実装力、さらには両者の持つ国内外の有識者ネットワークを結集することで、AI と共生する信頼社会の実現に向けた強力な推進力となることを目指します。

【NEC 東大ラボによる取り組み】

1. リーダーや専門家と優先的に取り組むべき社会課題を見出す議論の場を設け、「問い」を探究

産業界のリーダーや倫理学者、法制度の専門家など多様なステークホルダーが集まり議論する場を設け、東京大学と NEC の知を融合することで、様々な視点から AI との共生をテーマに「問い」を探究します。この活動を通じて社会全体を俯瞰しながら、日本と世界の未来像と解決すべき重要な社会課題を提言として社会に発信するとともに、社会連携講座での研究や人材育成に還元し、社会実装へと繋がります。

2. 社会連携講座を通じた社会実装の加速

人と AI が共生する未来社会のデザインと、技術の社会実装を担う社会連携講座を開設します。

データや AI を基盤とするデジタル空間と人々が暮らす物理空間の境界は次第に薄れており、近い将来、両者が一体化してあたかも同一の空間に存在するかのような社会の実現が見込まれます。その一例として、AI エージェントが経済活動の主体となるエージェント経済圏の勃興が挙げられます。

こうした新たな社会・経済システムを健全に実現するためには、技術のみならず、社会システム、倫理、法制度が複合的・有機的に進化していくことが不可欠です。NEC

は、複数の AI エージェント間で最適な合意形成を行う「自動交渉 AI」(注 4)を、エージェント経済圏を支える重要な技術と位置付け、その技術の高度化とともに、あるべき社会システムや倫理、法制度のあり方について東京大学と検討し、社会実装を推進します。

さらに将来的には研究テーマを広げ、持続可能で信頼される AI ネイティブ社会の構築に向け、社会実装を加速していきます。

3. AI ネイティブ社会を牽引する次世代リーダー育成

AI と共生する信頼社会の実現を牽引する人材の育成に取り組みます。この一環として、東京大学が新学部として設立を目指している「UTokyo College of Design」(注 5)において、長期インターンシップやデザイン教育プログラムなどを通じた次世代リーダーの育成に参画する予定です。

また、学生や両者の研究者が相互に行き来する機動的な人材交流を推進します。これにより、有機的な連携を一層強化し、「問い」の探究から社会実装までの取り組みをさらに加速させます。

【両者のコメント】

生成 AI を自社開発した技術力や様々な領域における AI の実装経験を有する NEC と、高度で幅広い専門知を有する本学が中心となって、多様なステークホルダーによる対話の場を設け、未来の社会課題を見出していきます。本産学協創が、より良い AI ネイティブ社会の構築に資する社会実装の推進と、それを担う次世代リーダー育成の場となることを期待しております。

東京大学 総長 藤井 輝夫

このたび東京大学と産学協創協定を締結し、NEC 東大ラボを設置できることを大変嬉しく思います。AI が社会の前提を変える今、日本の成長と産業競争力につなげるには、技術だけでなく、信頼性・社会受容性・ガバナンスを備えた社会実装が不可欠です。東京大学の多様な知と NEC の実装力を掛け合わせ、「信頼できる AI」の定着と、その実践知の世界への還元を進めてまいります。

NEC 取締役 代表執行役社長 兼 CEO 森田 隆之

以上

(注 1)所在地：東京都文京区、総長：藤井輝夫

(注 2)本社：東京都港区、取締役 代表執行役社長 兼 CEO：森田隆之

(注 3)ソートリーダーシップ：特定の分野において、深い専門知識と独自の洞察を持って議論や方向性をリードし、未来のビジョンや課題解決の方向性を示すこと。

(注 4)自動交渉 AI: 人が実施している様々な調整を人に代わりに調整・交渉する NEC 独自の AI 技術。

[自動交渉 AI: BluStellar AI～NEC の最先端 AI 技術～ | NEC](#)

(注 5) [UTokyo College of Design](#)

< 本件に関する報道関係からのお問い合わせ先 >

東京大学 産学協創部

E-Mail：kyoso-info.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

※ 本件のお問い合わせに際しては、件名冒頭に「【0317 東大 NEC 記者会見】」とご記載ください。